

みんなで掴んだ勝利！ 僕たちの決勝大会！！



第13回 中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会

2016年11月12日(土)・13日(日)の2日間、
第13回中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会「決勝大会」を開催しました。
両日とも晴天となり、中国5県の585チームの中から予選を勝ち抜いた8チームが
マツダZoom-Zoomスタジアム広島をメイン会場に熱戦を繰り広げました。

1日目 最後まであきらめない全力プレーに期待！ 野球を通じて大きく成長してほしい

初日の12日(土)、爽やかな秋晴れの中、マツダZoom-Zoomスタジアム広島で決勝大会が幕を開けました。開会式では、本大会を支える方々から励ましの言葉をもらった後、広島の南観マリナーズ主将が元気に選手宣誓を務めました。憧れのプロ野球選手たちがプレーする「マツダZoom-Zoomスタジアム」をメイン会場とし、準々決勝の全4試合を実施。この球場でプレーすることを目標に頑張ってきた選手たちは、日頃の練習の成果を存分に発揮し、毎試合、白熱した試合展開となりました。



今年は(中国ろうきん)石井理事長が始球式を務めました。



選手たちが元気に入場行進。



広島県代表の南観マリナーズ主将の選手宣誓で大会がスタート。



練習の成果を発揮！

力強い投球に大人顔負けのバッティング、盗塁や滑り込みと目が離せない試合展開。ベンチからも大きな声飛び、選手全員が全力でプレーする姿が印象的でした。

2日目 手に汗握る準決勝・決勝戦

2日目の13日(日)は準決勝と決勝の3試合が行われました。数々の試合を勝ち抜いてきた4チームの準決勝は大接戦。波根スポーツ少年団と東城ファイターズの試合は延長戦になり、タイブレーク方式で1イニング行いましたが決着がつかず、抽選により波根スポーツ少年団が決勝へ。決勝戦は、それぞれのチームが力を発揮しますが、要所を抑えた玉島南優勢の展開に。最後に審判の判定が出た瞬間に優勝チームが決定！選手たちは力を出し切った充実感とともに表彰式に臨みました。



決勝戦では、ヒットが出て進塁を許さない玉島南少年野球のキャッチャーの強肩が光っていました。



準決勝の第2試合は、試合では決着がつかず、抽選に。両チーム「絶対勝つぞー！」と気合を入れ、抽選に挑む選手たち。

頑張る子どもたちをバックアップ！

スタンドの決勝大会

スタンドからは、各チームの応援団が、工夫をこらした応援で子どもたちの試合を後押し。白熱した応援合戦が繰り広げられていました。



普段の練習からサポートしている保護者たち。団長が大きなメガホンで舵とり、息の合った応援を見せる。



ろうきん杯のために作ったTシャツ。選手とともに保護者も団結。



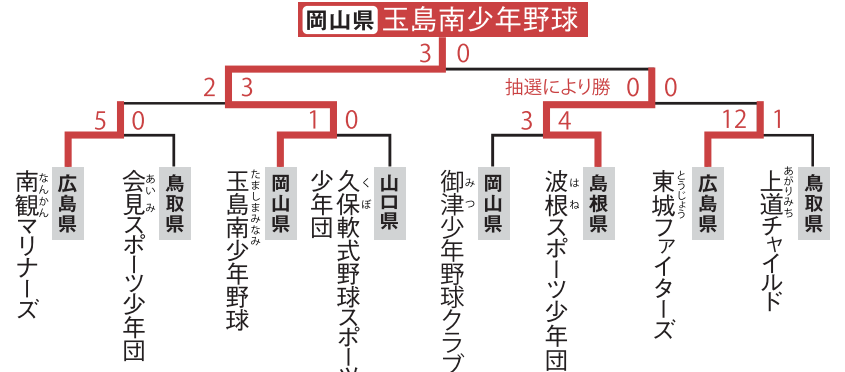
子どもたちに何かしてあげたいとの思いからスコアをつけ始めたあるチームのお母さんたち。一からの勉強でしたが、野球がわかるようになり、お子さんのコミュニケーションにもつながっているそう。

中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会とは？

「毎日ひたむきにがんばる子どもたちの夢を応援したい」という思いから、(中国ろうきん)の社会貢献活動の一環として2004年から開催。中国地区軟式野球連盟と(中国ろうきん)の共催により、2016年で第13回目を迎えました。

【参加チーム数・選手数】	2015年度		2016年度	
	チーム	選手	チーム	選手
鳥取県	91	1,820	83	1,660
島根県	104	2,080	101	2,020
岡山県	129	2,580	120	2,400
広島県	152	3,040	150	3,000
山口県	131	2,620	131	2,620
合計	607	12,140	585	11,700

●決勝大会のトーナメント表



波根スポーツ少年団
惜しくも決勝で敗れた波根スポーツ少年団。チーム唯一の6年生の主将を中心に、決勝大会をめざして頑張ってきた努力が実り、堂々の準優勝。



玉島南少年野球
主将自らチームミーティングを提案し、日々話し合いを重ね、練習に取組むうちにチームが一つにまとまり、内外野の連携が抜群のチームに。優勝という結果につながり、喜びもひとしお。

玉島南少年野球 主将